

私達の姓はどうして付けられたのだろうか

明治八年二月十三日、お上から庶民の姓をつける様にとの命令が出た。

それまでは、私達の呼び名は、福嶋村の何兵衛と呼ばれていたので、さぞかし、『てんやわんや』の大騒ぎをしただろうと想像する。

相談する相手は「親類同士」か「肝煎り」か、さもなければ信頼する檀家制度の下では「お寺の坊主」以外に、知恵のあるものが居ない。

考えられる事は、福嶋のような寄り合い所帯では、「おめえ何処から来たんじや」が、相談の元になったのではなからうか。

筆者の場合を想像する。現在福嶋の「本覚寺門徒」は、福田か明福で占められているし、高塚さんは、加賀の勝光寺さんの門徒で独占されているのを見ても、福嶋に来るまでの前住所が、とても姓を選んだ根拠になつていように見える。実際加賀市の福田に住んだとの証拠が多い。福嶋の村立ての頃、田んぼの中に村を創っていたが、度重なる手取川の洪水を避けて、砂丘地の現在地に上陸し村立てをした時代には、朝日、向河原、末政、などの洪水被害地を避けて上陸したと考えられる姓がととても多いのを見ても判るし、末信のように故地がはつきりするものも多い。中出・西出・南出・北出などは、この辺に多い姓であることを見ても、この想像は、当たらずとも遠からずと、考えるが如何。

